近畿地方の万葉集と風景画シリーズ（第三十二回）

「巻向（まきむく）の川」～河を詠む～

・「巻向の川」は奈良県北部奈良盆地の南東部に「神のいますところ・神を祭るところと」して有名な山で桜井市にある「三輪山」の北東にある巻向山（標高５６７．１ｍ）より発し三輪山の北裾を西流、上流は急流をなし、下流は穴師（大字）の南方を経て奈良県及び大阪府を流れ大阪湾に注ぐ大和川の上流の呼称である初瀬川に合流する。

・この巻向の川（流れている場所により穴師の川・痛足（あなし）の川と詠まれている。）について万葉集に次の歌が詠まれている。

1）巻向の　痛足（あなし）の川ゆ　行く水の　絶ゆる事なく　またかへりみむ

作　者　柿本人麻呂歌集（巻七―一一〇〇）

（解説）巻向の痛足の川を流れゆく水のように、絶える事なく、この川の景色を、また来て眺めよう。

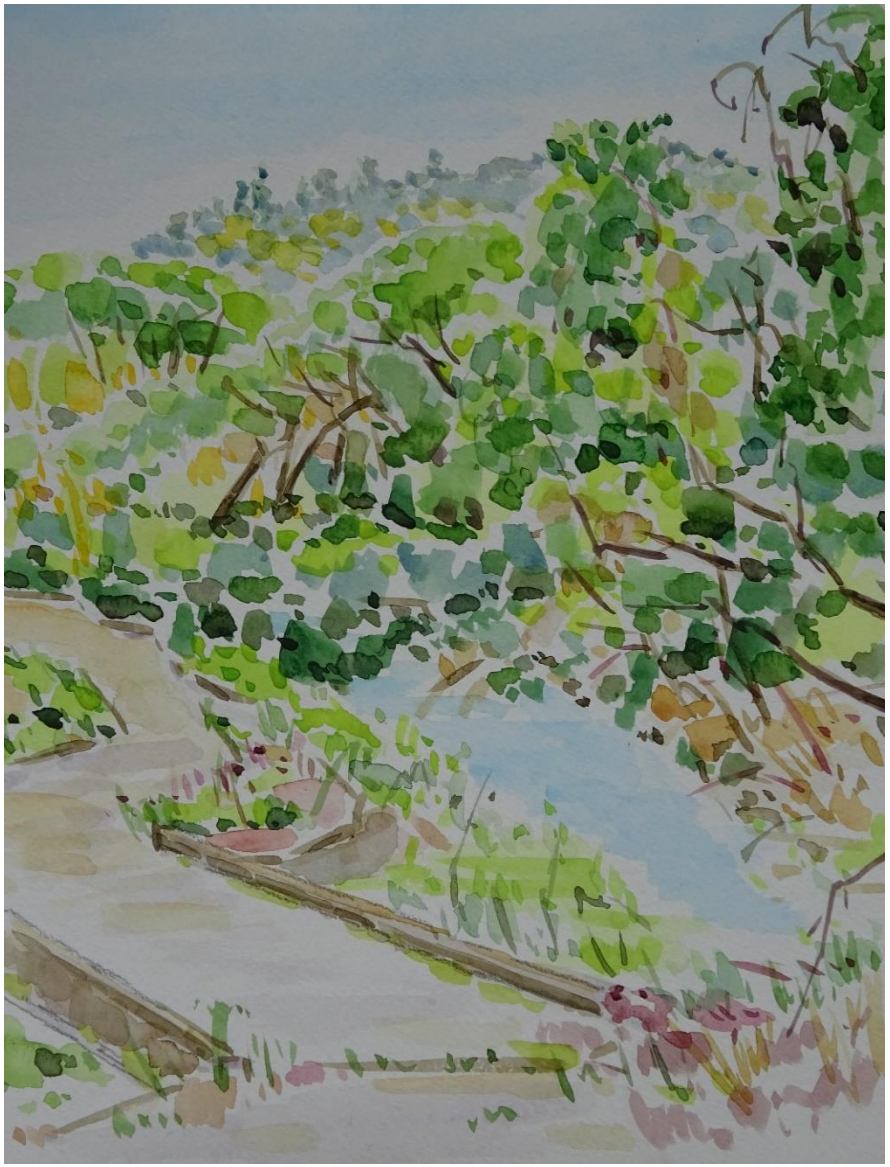
・痛足は現在の奈良県桜井市穴師（大字）を指している。

2）黒玉（ぬばたま）の　夜去り来れば　巻向の　川音高しも　あらしかも疾（と）き

作　者　柿本人麻呂歌集　（巻七―一一〇一）

（解説）夜になって来ると、巻向の川の音が高いよ。山の嵐が烈しいからであろうか。

・「黒玉（ぬばたま）」の現代名は「ヒオウギ（アヤメ科）」で、海岸や山地の草原に生える多年草の花で草丈は５０センチから一メートルくらい。その実は漆黒といってもよいくらい黒い実であることから万葉集では黒さを表す言葉で「夜、夕、今夜、月、夢」等の枕詞として用いられており、この歌では「夜」の枕詞となっている。

（参考文献）澤瀉久孝著「万葉集注釈」・大貫　茂著「万葉花の名歌」等

（写生地）三輪山の北裾（桜井市箸中）を流れる巻向川と背景に三輪山を描く。（池田杏花）